

## ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

### 1. 担当者

—

### 2. 学校概要

学校名 筑波大学附属坂戸高等学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒 350 - 0214

埼玉県坂戸市千代田1-24-1

E-mail : \_\_\_\_\_

Website : http://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp

児童生徒数：男子 203 名 女子 275 名 合計 478 名

児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

### 3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

地球規模の問題に対する国連システムの理解

持続発展教育 (ESD) (  国際理解  世界遺産  平和・人権  環境  気候変動  
 生物多様性  エネルギー  防災  食育  伝統文化 その他 (福祉、地域連携)

そのほか ( )

#### 4. 活動概要

**1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。**

筑波大学附属坂戸高等学校は平成6年に農業科、工業科、家政科を有する専門高校から総合学科高校へ転身し18年が経過した。「総合学科」とは、普通科、専門学科に次ぐ第三の学科であり、普通教科と専門教科の中から興味や進路に応じて自分だけの時間割を作成することができることが特徴となる。そうした教科横断的な学習を通して、世の中のあらゆる課題に対して多角的なアプローチから持続可能な社会の創造に寄与することができ、「実学をふまえた総合学科教育そのものがESD実践である」という認識のもと、「総合学科の特色を生かした多角的アプローチによるESD実践」というテーマを掲げ、全校をあげてESD実践に取り組んでいる。国際教育、環境教育、福祉教育、食育などの多様な教育分野はもちろんのこと、学校間交流や地域連携、実際に街中に出て活動する社会貢献など、多種多様な授業を有する総合学科だからこそ取り組めるESD実践に取り組んでいる。以下、本校のESD活動の一部を抜粋して取り上げる。

#### 海外との交流

- ・海外への修学旅行を実施（2年次生全員）
- ・海外の高校生（姉妹校：インドネシア、ボゴール農科大学附属コルニタ高校）と協働した3Rプロジェクト（H22～24年度トヨタ財団「アジア隣人プログラム」助成事業）
- ・ESD青年交流生徒1名派遣（アメリカ）
- ・ESD国際交流プログラム生徒1名派遣（フランス：パリ、ドイツ：フライブルグ）
- ・国際的視野に立った卒業研究支援プログラム（2・3年次生応募採択者対象）インドネシアへ生徒3名派遣
- ・ESD日米教員交流1名派遣（アメリカ）
- ・ACCU教職員訪問団受け入れ実施（韓国）
- ・筑波大学農林技術センター主催「国際農学ESDシンポジウム（AgESD）2011」にて生徒・教員発表（2・3年次生一部）

#### 授業（一部抜粋）

- ・学校菜園づくり（1年次生：「産業社会と人間」）
- ・色覚異常を持つ人がより生活・社会改善を考える（1年次生：「キャリアデザイン」）
- ・筑波大学附属の特別支援学校および地元の福祉施設との交流・ボランティア活動（1年次生：「産業社会と人間」および2・3年次生：福祉科各科目）
- ・日本財団と協働した地域・社会貢献活動（2年次生：「総合的な学習の時間」）
- ・地域企業（ヤオコー）と連携した食品残渣を有効活用したリサイクルループの実践（残渣堆肥を利用した野菜栽培とスーパーでの販売活動）（3年次生：「生物資源実習Ⅱ」）
- ・坂戸市葉酸プロジェクトへの協力 ルーコラの栽培（2年次生：「農業実験」）
- ・大豆栽培から味噌製造・販売までを実践した地産池消の推進（3年次生：「食と農の科学」）
- ・機械・電子・情報等を融合した多角的な視点を育む授業（3年次生：「工学情報実習」）





以下につきましては、該当する取組を実施した場合のみ  
記載をお願いします。

- 実施テーマにおける教材の工夫や授業手法における工夫。

総合学科特有の多様な教科からのアプローチを大事にしている。また、生徒自身に多面的・多角的な視野を持たせるため、総合学科原則必履修科目「産業社会と人間」のなかで、ユネスコスクール・ESDの概要について説明し、学校が取り組もうとしていることについて提示して、生徒にそれに応えてもらおうとした。

- 実施テーマに関連した研究旅行の実施。

来年度入学生より、海外修学旅行とESDを絡めて実施しようと模索しているところである（H25年度実施予定）。

- 他国の学校との交流や相互協力の実施。（交流した国、学校名の記載もお願いします。特に相手校がASPネットワークに参加している場合は、その旨も記載願います。）

平成23年3月にインドネシア・ボゴール農科大学附属コルニタ高校と姉妹校締結を結んだ。コルニタ高とのつながりは、平成20年度「国際協力イニシアチブ事業」において本校と環境教育教材の協働作成を行ったことがきっかけである。その後、「アジア隣人プログラム」で生徒同士の交流が活発化し、姉妹校締結に至った。ユネスコスクールへの加盟も呼びかけている。

- 国連やユネスコが取り組む国際的な記念日、国際年、国際的な10年を記念する取組の実施。（国際母語の日、国際天文年、識字の10年など）

特記事項なし